

海外事務所 だより

産業衰退・ 人口減少都市の取組み

ニューヨーク事務所所長補佐 今田 淳次（島根県派遣）

ニューヨーク
事務所

はじめに

現在日本では、東京、大阪および名古屋の三大都市圏を中心とする一部地域に人口が集中する一方、多くの地方都市は人口流出が止まりません。さらには少子化問題に代表されるように人口の自然減に対し、いかに歯止めをかけ、地域の発展を促すかが喫緊の課題となっています。そうした取組みの一つとして、若年層を中心とした雇用対策と、退職後の生活を地方で送ってもらうように定住対策を実施しています。

一方、アメリカでは、移民を受け入れていることもあり、ほとんどの自治体では人口が増加しているのですが、基盤産業の衰退などの影響を受け、人口が減少している自治体も存在します。そこで一例としてオハイオ州ヤングスタウン市での取組みを紹介したい

と思います。

都市の概要

ヤングスタウン市はオハイオ州の東側、マホーニングカウンティにあり、人口およそ七万三〇〇〇人（二〇〇七年推計）の州内八番目の人口規模を持つ都市です。一七九六年に設立され、一八二〇年以降

鉄産業の発展に伴い、人口が増加し始め、最盛期の一九五〇年代には一六万人以上に達しました。しかしながら、その後、鉄産業の衰退と歩調を合わせるように人口は減少しています。人口統計センサスによると二〇年ごとの減少率は平均一六％を超えるものとなって

表1：ヤングスタウンの人口推移と減少率

	人口(人)	対前回減少率(%)
1950年	168,330	
1960年	166,688	△ 1.0
1970年	139,788	△ 16.1
1980年	115,427	△ 17.4
1990年	95,787	△ 17.0
2000年	82,026	△ 14.4
2007年	73,818	△ 10.0

図1：ラストベルト地域（濃い部分が該当地域）



Manufacturing Belt, highlighted in red

アメリカにおいて人口減少が特に目立つ地域としてラストベルト地域があります。これは、マサチューセッツ州からミシシッピ川に至る工業地帯であり、主な都市として、ニューヨーク州バッファロー市、ペンシルバニア州ピッツバーグ市、ミシガン州デトロイト市などがあり、ヤングスタウン市もこの中に

います。

四つの柱

含まれます。

ヤングスタウン市では、事業を実施するに当たり、まず「Youngstown2010」という全体計画を策定しています。その中で市が今後事業を進めていく上での方向性を四つの柱として示しています。

(1) ヤングスタウン市は縮小していることを受け入れること

新しい計画を策定するには、現状を正しく認識し、それを自覚しなければなりません。しかし、『シティ』は住民の生活を向上させ、その地域や街を発展させるために設立されたものであることを考えると、縮小させるということを受け入れることは、難しいことだと思われます。

ヤングスタウン市は、鉄産業の衰退により、過去三〇年で人口は半分以上減少し、産業基盤のほとんどすべてを失ってしまったにもかかわらず、必要以上に都市化したままインフラが残り、開発されず放置されたままの土地と十分に活用されていない施設が点在しています。この計画の中ではこの状況を「身の丈を超えた発展」と位置付けています。

(2) 地域経済におけるヤングスタウン市の役割を定義すること

鉄産業がヤングスタウンの経済に寄与し

た期間は長くはなく、現在は多くの人がほかの産業に従事しています。市は、例えば大衆、健康管理セクターのようにより多様性があり、成長する分野に対して支援することとしています。

(3) ヤングスタウン市のイメージを向上させ、生活の質を高めること

これは、長期的な視点に立ち、後々住民を確保していくための前提となる住環境を整備するということです。

『生活を続け、働いていくためにより健康的でよりよい場所』になるための環境を整備しようとしています。というのも住民は人口が減少するにつれて建物や通りが崩壊していくことに慣れてしまい、放置されたままの住宅が点在しており、市では「壊れた窓を直す」ということから始めています。

ヤングスタウンは近隣地域や中心街、教育システムを向上させることが重要だとされています。そして、公共の安全確保や人種差別のような困難な問題も扱っていくこととしています。

(4) 行動を呼びかける

住民は今後変化していくということに対して準備ができています。というのも既にこの計画の遂行に携わりたいと思っている人や、何かしらの貢献を果たしたいと思っている人がたくさんいるからです。これを受けて、市では現実的で行動本位の計画や地域

リーダーが、絶えず権限を保持し続けることができるとような過程を整える義務を負っています。

計画策定過程

まず重要なことは、計画策定段階において、行政の一方的な決定ではなく、地域コミュニティの関与を経て、ビジョンが策定されるということです。そして、議会によって承認され、事業が実施されます。さらには、ボランティアのワーキンググループが、この計画決定や事業実施を支援しています。人数にして一六五人、主に四つのグループに分かれて活動をしています。(図2)

「新たな地域経済の枠組みの中のヤングスタウンの役割を明確にする」経済分野。「生活やビジネスの場所としてのヤングスタウンの魅力向上させる」ことを目的とする環境分野。そして、地域で共有すべき将

図2：ボランティアグループの役割分担と人数

Working Group & Sub-groups	# of Volunteers	Mission
Youngstown's New Economy		Define Youngstown's Role in the New Regional Economy.
Creating Economic Wealth and Jobs in the Valley and City	15	Achieve a shared understanding and vision of the new regional economy and the city's economic opportunities.
Renaissance in City Retail and Service Commercial Centers	10	Create commercial centers in the City to compete for consumer spending of city households.
Vision for the Downtown Economy	25	Define a business development strategy for the downtown.
Youngstown Clean and Green		Improve the attractiveness of Youngstown as a place to live and do business.
Fix up, cleanup, and beautification	40	Create a livable city by eliminating blight, increasing property maintenance, and beautifying public spaces and gateways.
Enjoy our natural amenities	20	Achieve a shared vision of the city-wide network within the regional network of greenways and outdoor amenities, and restore/protect the river and streams.
Youngstown's New Neighborhoods		Create a shared vision for Youngstown's neighborhoods using grass-roots groups and residents.
Neighborhood-based planning	15	Engage broad-based participation of residents and groups in planning for the city's authentic neighborhood areas.
Housing for Emerging Markets	15	Define a housing strategy for each neighborhood area for improving the supply of quality housing.
New Image for Youngstown	25	Create a marketing strategy to promote Youngstown 2010 and establish communication for the Youngstown 2010 planning process.

来ビジョンの策定と本計画を促進させるマーケティング戦略を受け持つコミュニティ分野を設けています。

こうしたボランティアの努力により、もともと三に分けられていた地域は似たような条件に置かれていた地区を結びつけ、最終的には二一の地域団体にまとめられました。

計画の目的

ヤングスタウン市は、基盤産業であった鉄産業の発展とともに次第に拡大した都市であるため、都市計画としてのゾーニングがなされていませんでした。そのため、工業地と商業地、住宅地が整理されない状況でした。本計画の主目的はこの状況を改善するため再ゾーニングにあります。市全体として再ゾーニングをとらえた時には、次の四つの視点から整備されています。

(1) グリーンネットワークの創出

きれいで緑あふれる都市の創出という願いは、住民にとって不変のものです。

『gray to green』という言葉のもと、市の中心部を流れる川辺一帯をグリーンネットワーク地帯として整備し、レクリエーションスペースやオープンスペースを設けるなど憩いの空間作りをしています。

(2) 競争的工業地区の設置

ヤングスタウン市は、古く使われなくなっ

た工業用地の独自の再利用の分野では先駆者です。新しい工業界のエコロジーの分野に容易に適合する工業地域とでもいうべき状況をもたらしています。そして、この『gray to green』開発プロセスの継続的な創意工夫により、新たな地域経済あるいは世界経済の中でも競争力を保ち続けることができるのです。

(3) 成長する地域

ヤングスタウン市は、まちのすべての地域で成長しています。地域住民の恒久的な活力を持続することや隣地域を安定させることによつて、市は時代の流れにうまく対応できなかつたいくつかの隣接した地域を立ち直らせるための出発点に立っています。

(4) 活気に満ちた中心部

ヤングスタウン市のコンパクトなまちづくりの核となる―かつての活動の中心地―は、既に完成しています。ビジョンに掲げるプロセス、あらゆる地域会議、あらゆる近隣

図3：現在の土地利用状況



図4：将来の土地利用状況



の団体とヤングスタウン州立大学の二〇〇年計画は、生き残るダウンタウンの重要性を強調しました。中心市街地は通りの改修、コンベンションセンターの建設、連邦と州の裁判所建設により、活気は戻ってきています。

おわりに

とある新聞の記事には、「今回の計画に賛同します」、「新しい経済環境に適応していくつもりです」、「もつとよい生活環境を手に入れるつもりです」といった賛同する声がたくさん聞かれ、住民と行政組織が同じ方向を向いていることが理解できます。

日本で生活している時に、アメリカは地方分権が進んでいて、基礎的な行政主体であるシティやタウンが地域住民のために各種施策を展開しているのだからと漠然と思っていました。住民が積極的に計画決定や事業実施に参加することで地方自治が行われ、自らの権利の保護や生活レベルの維持向上を図るといったものでした。

今回はヤングスタウン市の事例を紹介しました。今後は同じような課題を抱えるほかの団体の取組みを調査するとともに、人口減少地域に対して、カウンティ政府や州政府がどのようにかわり、施策を実施しているのか。あるいは南部や西海岸など地域性による対応の違いについても注意深く調査をしてみたいと思います。

海外生活
だより

ニวยอร์ก事務所で
ニวยอร์กで
ボランティア

ニวยอร์ก事務所

ニวยอร์ก事務所所長補佐 木元 恒喜 (千葉市派遣)

なぜボランティア?

一月のある日、私はマンハッタン北部の高齢者施設にやって来ました。「NY de Volunteer」という非営利法人が行う「Japanese Spa Day」というイベントにボランティアとして参加するためです。

私がこのイベントに参加したのは、NY de Volunteer 代表の日野紀子さんに、私が担当する地方公務員向け海外研修プログラム「クリア国際塾」開講式の講師をお願いしたことがきっかけでした。

NY de Volunteer はニวยอร์กを拠点に活動する日本人のボランティア団体で、二〇〇二年に設立されました。今までに活動に参加した延べ人数は約四五〇〇人で、ニวยอร์ก市からの委託による子ども達への日

本文化普及や、ホームレス施設でのスूपキッチンなどの活動を行っています。

ニวยอร์กに来る前から、「アメリカはボランティア大国だ」と、根拠もなく思い込んでいた私は、機会があればボランティア活動に参加してみたいと思っていたところだったので、日野さんに相談してみたところ、Japanese Spa Day への参加を誘っていたのです。

何をやるの?

この Japanese Spa Day というイベントは、介護施設に入所中のお年寄りに、メイクアップやネイルケアをするというもので、最初誘われた時は「メイクはちょっと…」と断りかけたのですが、写真撮影のボランティアもあると聞いて「それなら少しは役に立てる

かも」と参加を決めました。

まずは準備から

朝九時四五分、会場となった高齢者施設の体育館で受付を済ませます。参加者の皆さんのほとんどが初対面で、お互いに会話はほとんどなく、緊張した様子でした。

午前中はイベントに協賛する資生堂の方によるメイク講習です。お年寄りの顔をきれいにメイクする方法や、相手を不安にさせないため、常に声を掛けながらメイクすることなどの説明があり、皆さん真剣に耳を傾けていました。

その後、参加者同士がペアになってお互いの顔にメイクを施します。初対面の人が相手で、しかも他人の顔にメイクをしたこともほとんどないため、皆さん初めは緊張した様子でしたが、ひとたびメイクを始めると、プロにメイクのコツを教えてもらったたり、仕上がった相手の顔を見つめて「すごく好きみの顔になった!」と声を掛けたりと、笑顔と笑い声



↑真剣にメイクアップ講習を受ける参加者の皆さん

が会場に充満する中、一気にお互い打ち解けていました。

サービス開始

午後一時半からのサービス開始に先立って、高齢者施設の職員から車椅子の扱い方についての説明がありました。参加者からも活発に質問が出され、安全への意識の高さと、責任感の強さが感じられました。

当日参加した入所者は八五人。ボランティアによるメイク、プロのヘアスタイリスト、ネイリストによるサービスのほか、ヘアカットやマツサージなども受けられます。

入所者の皆さんは最初は緊張していましたが、参加者と話をしながらメイクなどのサービスを受けているうちに、段々と表情が柔らかくなってきます。この介護施設には日系で、久しぶりに日本語を話すのがうれしいという方や、スペイン語しか話さない方で参加者と言葉でのコミュニケーションがほとんど取れない方などいろいろな方がいました。入所者と参加者皆さんの様子を見ていて、言葉がうまく通じなくても、肌と肌の触れ合いで心を通わすことができるのがこのイベントのよさだと感じました。

いよいよ出演です

メイクが終わると写真撮影。いよいよ私の出演です。体育館の壁際を即席のスタジ

オにして、メイクを終えた後の記念撮影をします。最初は緊張していた入所者の皆さんも、「もつと笑って」、「きれいな爪を見せよう」と声掛けながら一枚、二枚と写真を撮っていくと、段々と元気な笑顔を見せてくれます。

そして、撮った写真をデジカメの画面で確認すると、皆さんとても喜んでくれました。印象的だったのは、ネイルケアが終わった時点では写真は撮ってほしくないと聞いていたおばあちゃんが、メイクを終えて鏡を見た後、ちよつと照れたように「やっぱ写真撮ってくれないかしら」と頼んでくれたこと、写真をとても気に入ってくれて、「フロリダの海軍にいる息子に送るから、この写真をぜひちょうだい」と言ってくれたおばあちゃんがいしたことなどです。(今回撮影した写真は、後日 NY de Volunteer から参加者に配られました)

また、女性だけでなく、男性の写真撮影もしました。皆さん笑うよりもりりしい顔で写るのが好みなようで、ある入所者の方はできあがった写真



↑メイクとネイルケアの後、ボランティアと一緒に記念撮影

を見て「おじいちゃん、男前だね。大統領選挙に立候補できるよ！」と声を掛けられ、うれしそうに照れていました。

ボランティア活動に参加して

「元気をもらえた」というのが一番の感想です。サービスをする側も受ける側も、自然と笑顔になってしまふのがこのイベントの不思議な魅力でした。私も、写真を撮った人達から口々に感謝の言葉を掛けられ、一日の間にこれだけ「ありがとう」をたくさん言われたことは、今までにない経験でした。会場を出た午後六時には、辺りはもう真っ暗になっていましたが、私自身は晴れやかな気持ちで帰路につきました。

また、運営側のコーディネートも強く印象に残りました。参加する側はイベント当日の時間と労力を提供するだけなのに対し、運営する側の準備は本当に大変だったと思います。段



↑活動を終えて参加者全員で記念撮影(前列右端が筆者)

取りのよさ、時間管理の正確さ、参加者自身の気配りなど、日本人のよさが随所に発揮されたイベントでした。